# 第3回MPC勉強会

鶴原康太

November 9, 2023

### 今回の目標

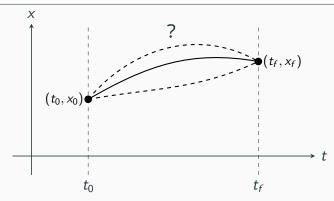
$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t), t\right)$$

- 復習
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

今までの内容覚えてますか? 復習しましょう!!

### 最適制御とは

状態方程式 
$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t), t)$$
 評価関数  $J = \frac{\varphi(x(t_f))}{\varphi(x(t_f))} + \frac{\int_{t_0}^{t_f} L(x(t), u(t), t) dt}{\chi_{t_0}}$  終端コスト ステージコスト



### 变分法

#### 微分法

関数の勾配を考える 停留するとある関数の最大 or 最小 点の変動を考える



#### 变分法

汎関数 (関数の関数)配を考える停留するとある関数の全体を最大 or 最小関数 の変動を考える

微分法ではある曲線を最小化 (最大化) することを考えていたけど、変分法ではある評価 関数に基づいて関数全体を最小化 (最大化) する関数を求める 偏微分と似た考え方をする

二点境界値問題の解

Euler-Lagrange 方程式を満たす

制約を含んだ場合

### 第1回、第2回まとめ

第1回

最適制御問題を予め、時間的に離散化することによって 最適化問題に落とし込んだ

第2回

変分法を利用して2点境界値問題の最適性条件を導いた

### 最適性条件まとめ

- 時間を考慮しない —

- 線形 MPC ---

予め時間を考慮して出した式から出た最適化問題を 解いたから最適化問題自体は時間を考慮不要

Lagrange の未定乗数法

$$L(x, \lambda) = f(x) + \lambda^{T} g(x)$$

#### KKT 条件

$$\nabla f(x^*) + \sum_{i=1}^m \lambda_i^* \nabla g_i(x^*) + \sum_{j=1}^n \mu_j^* \nabla h_j(x^*) = 0$$

$$g_i(x^*) \le 0 \quad \text{for all } i$$

$$\lambda_i^* \ge 0 \quad \text{for all } i$$

$$\lambda_i^* g_i(x^*) = 0 \quad \text{for all } i$$

$$h_i(x^*) = 0 \quad \text{for all } j$$

・時間を考慮 -

- 非線形 MPC -

時間で離散化せずに直接最適化問題を解きたい

Euler-Lagrange 方程式

$$\frac{\partial L}{\partial x} - \frac{d}{dt} \left( \frac{\partial L}{\partial \dot{x}} \right) = 0$$

- 動的計画法 —

最小原理

### 最適化の多様な定式

- Q. なぜ似たようなものがいくつもあるのか??
- A. 同時期 (冷戦期) に 2 人の天才によって最適制御が定式化されたから

# 3333333



Bellman 方程式 HJB 方程式



最小原理

88888888



Bellman

- 復習
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

方針:

問題を分割して最適制御を考える

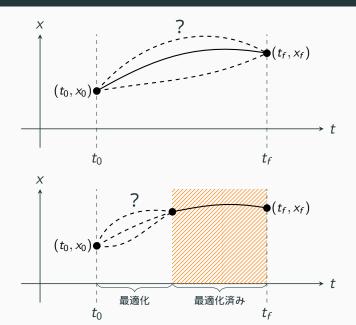
#### 最適制御

状態方程式 
$$\dot{x}(t) = f(x(t), u(t), t)$$
 評価関数  $J = \frac{\varphi(x(t_f))}{\varphi(x(t_f))} + \frac{\int_{t_0}^{t_f} L(x(t), u(t), t) dt}{\chi_{\tau}}$  終端コスト ステージコスト

価値関数 V(x,t): 評価関数 J を最小にする値

$$V(x,t) = \min_{u[t,t_f]} \left( \varphi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau), u(\tau), \tau) d\tau \right)$$
$$V(x,t_f) = \varphi(x(t_f))$$

最適化を価値関数を探すことだと考える



### Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

$$V(x,t_f) = \varphi(x(t_f))$$

$$\begin{split} V(x,t) &= \min_{u[t,t_f]} \left( \varphi(x(t_f)) + \int_t^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right) \\ &= \min_{u[t,t_f]} \left( \int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau}{\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left( \int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{\min_{u[t+dt,t_f]} \left( \varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau \right)}{\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \\ &= \min_{u[t,t+dt]} \left( \int_t^{t+dt} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau + \frac{V\left(x + \int_t^{t+dt} f(x,u,\tau) d\tau,t + dt\right)}{\varphi(x(t_f)) + \int_{t+dt}^{t_f} L(x(\tau),u(\tau),\tau) d\tau} \right) \end{split}$$

#### Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} (L(x,u,t)dt + V(x+f(x,u,t)dt,t+dt))$$

#### 次元の呪い

次元の呪いは、状態空間や行動空間の次元数が増加するにつれて、必要な計算量やメモリが指数的に増加する現象 2 次元の格子が 10 の場合、合計 100 のセルが存在します。しかし、 10 次元の格子が各次元に 10 のセルを持つ場合、合計で  $10^10 = 10,000,000,000$  のセルが存在します。このように、次元が増加するにつれて格子の数が指数的に増加し、それに伴い計算量も指数

的に増加します。

### 動的計画法まとめ

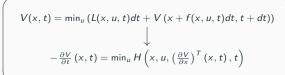
動的計画法は大きな問題を小さな部分問題に分解し、それ ぞれ解くことで全体の解を得る手法

### Bellman 方程式

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} \left( L(x,u,t) dt + V(x+f(x,u,t) dt,t+dt) \right)$$

- 最適的な性質を持つ
- 計算結果を保存して再利用 (メモ化)

- 復習
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入



### 方針:

微分の形にしたい → Taylor 展開 Hamiltonian でまとめられそう

### HJB 方程式

$$V(x,t) = \min_{u} \left( L(x,u,t)dt + V\left(x + f(x,u,t)dt,t+dt\right) \right)$$

(x,t) で Taylor 展開する

$$V\left(x+f(x,u,t)dt,t+dt\right)\simeq V\left(x,t\right)+rac{\partial V}{\partial x}\left(x,t\right)f\left(x,u,t\right)dt+rac{\partial V}{\partial t}\left(x,t\right)dt$$

$$V(x,t) = \min_{u[t,t+dt]} \left( L(x,u,t) dt + V(x,t) + \frac{\partial V}{\partial x}(x,t) f(x,u,t) dt + \frac{\partial V}{\partial t}(x,t) dt \right)$$

$$0 = \min_{u[t,t+dt]} \left( L(x,u,t) + \frac{\partial V}{\partial x}(x,t) f(x,u,t) + \frac{\partial V}{\partial t}(x,t) \right) dt$$

ハミルトニアンでまとめる

$$H(x, u, \lambda, t) = L(x, u, t) + \lambda^{T} f(x, u, t)$$

$$H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T} (x, t), t\right) = L(x, u, t) + \frac{\partial V}{\partial x} (x, t) f(x, u, t)$$

$$-\frac{\partial V}{\partial t}(x,t) = \min_{u} H\left(x, u, \left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}(x,t), t\right)$$

### HJB 方程式

$$-\frac{\partial V}{\partial t}\left(x,t\right) = \min_{u} H\left(x,u,\left(\frac{\partial V}{\partial x}\right)^{T}\left(x,t\right),t\right)$$

- 復習
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

別の観点から最適制御を考える



# 最小原理1

### 最小原理2

もちろん最小原理から HJB 方程式を導ける

### 最適性条件まとめ

ラグランジュの未定乗数法

KKT 条件

オイラーラグランジュ方程式

動的計画法 (new)

HJB 方程式 (new)

最小原理 (new)

動的計画法から HJB 方程式を導いたが、最小原理からも導けるここに各関係の図を貼る

- 復習
- 動的計画法
- HJB 方程式
- 最小原理
- MPC 導入

### **MPC**

Euler-Lagrange 方程式では入力に状態を含んでいないので、 状態が変化 (外的要因によって) する現実システムだと扱い にくい

HJB 方程式は入力に状態を含んでいるが、偏微分方程式なので扱いにくい

現実問題に落とし込んだのが MPC

評価区間が無限の MPC の解は HJB 方程式と一致するはず (たぶん...)

### 参考資料

#### 書籍

- 非線形最適制御入門 (名著です)
- しっかり学ぶ数理最適化 (最適化全般について)
- はじめての最適化 (変分法の説明が分かりやすいです)